

副理事長



この度、副理事長を拝命致しました横浜市立大学の竹居光太郎です。前年度までの2年間は庶務担当理事を務めさせて頂きましたが、今後は岡野栄之理事長の補佐役としてお役に立てるよう努力致す所存です。若い理事に世代交代の中、以前の学会の様子を知る古参古株として尽力致したいと存じます。私は1988年に大学院を卒業した後、日本神経化学会の生みの親である塚田裕三先生が主宰されていた慶應義塾大学医学部生理学教室に赴任し、脳機能を化学的な見方で捉える研究に触れることになりました。塚田裕三先生の御退官後は神経化学会の重鎮であられる高坂新一先生、植村慶一先生、御子柴克彦先生、高松研先生の各先生に師事し、神経化学会会員の古参として今に至っております。慶大では教室員全員で「神経化学」に掲載される学会抄録（1演題A4版2枚）を長時間かけて査読する作業を行い、神経化学分野の様々な領域を一挙に勉強する好機となりました。「分子・分子機能-病態」の相関関係を化学的な見方で攻めるといった神経化学の醍醐味を自身の研究スタイルの根底に据え、神経回路網形成に関わる神経発生生物学的研究の中、神経回路形成因子LOTUSを発見・命名しました。LOTUSはNogo受容体の内在性拮抗物質として神経再生を促進したりシナプス可塑性を制御したりすることが分かりました。現在は、「分子・分子機能-病態」の流れを体現するべく、LOTUSを利用した医療技術の創成に挑戦しています。「可能の反対は不可能ではなく、挑戦である」という誰かが言った言葉が私は好きです。

神経化学会は、学会発表での議論を重視したり若手育成に注力したりする親身溢れる魅力的な学会です。また、大き過ぎないのが良くて、多くの会員の顔が見えます。そのような他にはない素晴らしい特徴を増長できるように精一杯尽力したいと思います。今後とも御指導御鞭撻の程、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

横浜市立大学 竹居光太郎